

2019年11月22日
農林中央金庫 福島支店
ふくしま未来農業協同組合
株式会社日本政策金融公庫 福島支店
飯 館 村 役 場

ブランド牛「飯館牛」の再開を支援

農林中央金庫福島支店(略称:農林中金)、日本政策金融公庫 福島支店(略称:日本公庫)、ふくしま未来農業協同組合(略称:JA)および飯館村の4者は、この度、山田豊氏・猛史氏(37歳、70歳)および天野浩樹氏(32歳)の飯館村での肉用牛繁殖経営再開を連携して支援いたしました。

農林中金、JAおよび日本公庫は、3氏の営農再開計画の策定や行政機関との調整等を事業構想段階からサポートすると同時に、飯館村の復興に果たす役割を評価し、運転資金、設備資金として農業経営基盤強化資金(略称:スーパーL資金)、土地取得資金としてアグリマイティー資金の融資を行いました。

飯館村は、福島再生加速化交付金による牛舎の貸与、営農計画の策定の支援、また、人・農地プランへの位置づけを行い、地域の中心になる農家として支援しました。

○飯館村の現状について

飯館村は、2011年3月11日に発生した福島第一原子力発電所事故の影響により村内全域が警戒区域または計画的避難区域に指定され、全村民が避難を余儀なくされていましたが、2017年3月31日に一部地域を除き避難指示が解除され、村民の帰村および産業の再開に向けて、村を挙げて取り組んでいるところです。

飯館村は特に、肉用牛の生産地として知名度が高く、地域ブランド「飯館牛」は高級和牛として確固たる地位を築いていました。震災をきっかけに「飯館牛」の生産農家は避難を強いられ、ブランドは存続の危機に瀕している状況です。飯館村は、現在村を挙げて「飯館牛」ブランドの復活に取り組んでいます。

○飯館村に移農する農業者について

山田豊氏・猛史氏は、震災以前は飯館村にて30頭規模の肉用牛繁殖経営を営んでおり、福島市へ避難後も肉用牛経営を継続してきました。避難指示解除時を契機に、飯館村でもう一度肉牛生産を行いたいという思いが高まり、今回飯館村での経営再開を決めました。

氏名	山田豊(37歳)、山田猛史(70歳)
営農類型	肉用牛繁殖経営
利用資金	日本公庫 農業経営基盤強化資金
資金使途	肉用牛繁殖用母牛の導入、牛舎周辺の造成工事等
今後の計画	約50頭の頭数を保有しているが、今回の融資を活用して新たに12頭を導入し、今後も順次飼養頭数を増加させる予定

天野浩樹氏は、祖父が相馬市にて行う肉用牛の経営を手伝う兼業農家でした。震災後、自らの畜産に関する知識や技術が深まるなかで、専業農家として独立したいとの思いが高まる折に、飯舘村で独立できる機会があること、また以前から気にかけていた飯舘牛ブランドの復活に向けて、自らの技術を活かしたいという新たな思いが芽生え、飯舘村で肉用牛生産を行う決意をしました。

氏名	天野浩樹 (32 歳)
営農類型	肉用牛繁殖経営
利用資金	日本公庫 農業経営基盤強化資金 J A アグリマイティー資金
資金使途	肉用牛繁殖用母牛の導入、牛舎周辺の造成工事、事業用地取得等
今後の計画	居住地、肉用牛経営のすべてを相馬市から飯舘村に移し、2020 年までに融資を活用して素牛を順次導入、5 年後には約 80 頭規模まで拡大させる計画

○今後に向けて

今回の肉用牛経営の再開は、飯舘村の復興および「飯舘牛」ブランドの復興に向けて大きな意義を持つものと理解し、今後の地域農業の活性化、避難者の帰村や雇用の創出に繋がると考えています。

農林中金、J A および日本公庫は、引き続き 3 氏をサポートしていくと同時に、東日本大震災からの復興や地域農業の振興に向けた取組みを支援してまいります。

飯舘村は、「飯舘牛」ブランドの本格的な復興に向け、3 氏を地域の中核的担い手と位置づけ、「復興加速化交付金」による支援などを通じ、経営再開を後押ししていく方針です。

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫福島支店（八島、渡邊（大）） TEL：024-552-5606

ふくしま未来農業協同組合 TEL：024-554-5500

日本政策金融公庫福島支店（藤丸、成田） TEL：024-521-3328

飯舘村役場 TEL：0244-42-1621